

フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験 3年間まとめ

健常者群に施行したフェイシャルエステの結果、接触皮膚炎などの有害事象はなく、過敏皮膚に関しては施術による皮膚障害の可能性はあるが、通常の手順や使用方法を逸脱しなければ施術に問題はないと考える。

年齢と角層水分量、TEWL を施術前後で比較した結果、頬、鼻翼の角層水分量比及び頬の TEWL 比(施術後の測定値/施術前の測定値)に優位な相関 ($p<0.05$, Spearman) を認め、角層水分量比及び TEWL 比は年齢に応じて高くなっていた (Fig.1)。以上より、限られた部位ではあるが、高齢者の方が施術により、角層水分量が高くなるなど効果も出やすい反面、TEWL も高くなり、バリア機能低下などの影響も受けやすいと考えた。

また、20 年以上の経験のある熟練者と、経験年数の浅い技術者で、施術による皮膚への影響を比較した結果、年齢で影響のあった頬に関して、経験年数の浅い技術者のみに角層水分量比と TEWL 比に相関 ($p<0.05$, Spearman) が認められた (Fig.2)。以上から、熟練者と比較して、経験年数の浅い技術者では施術の効果を高めるにあたり、バリア機能に関してもより大きな影響を与えている可能性がある。

さらに、2 例の TEWL 比において多くの被検者と異なるデータを示したことから、化粧品、エステティック施術により、想定外の反応を起こす人がいることも踏まえ、施術に当たるよう指導する必要があると考えた。

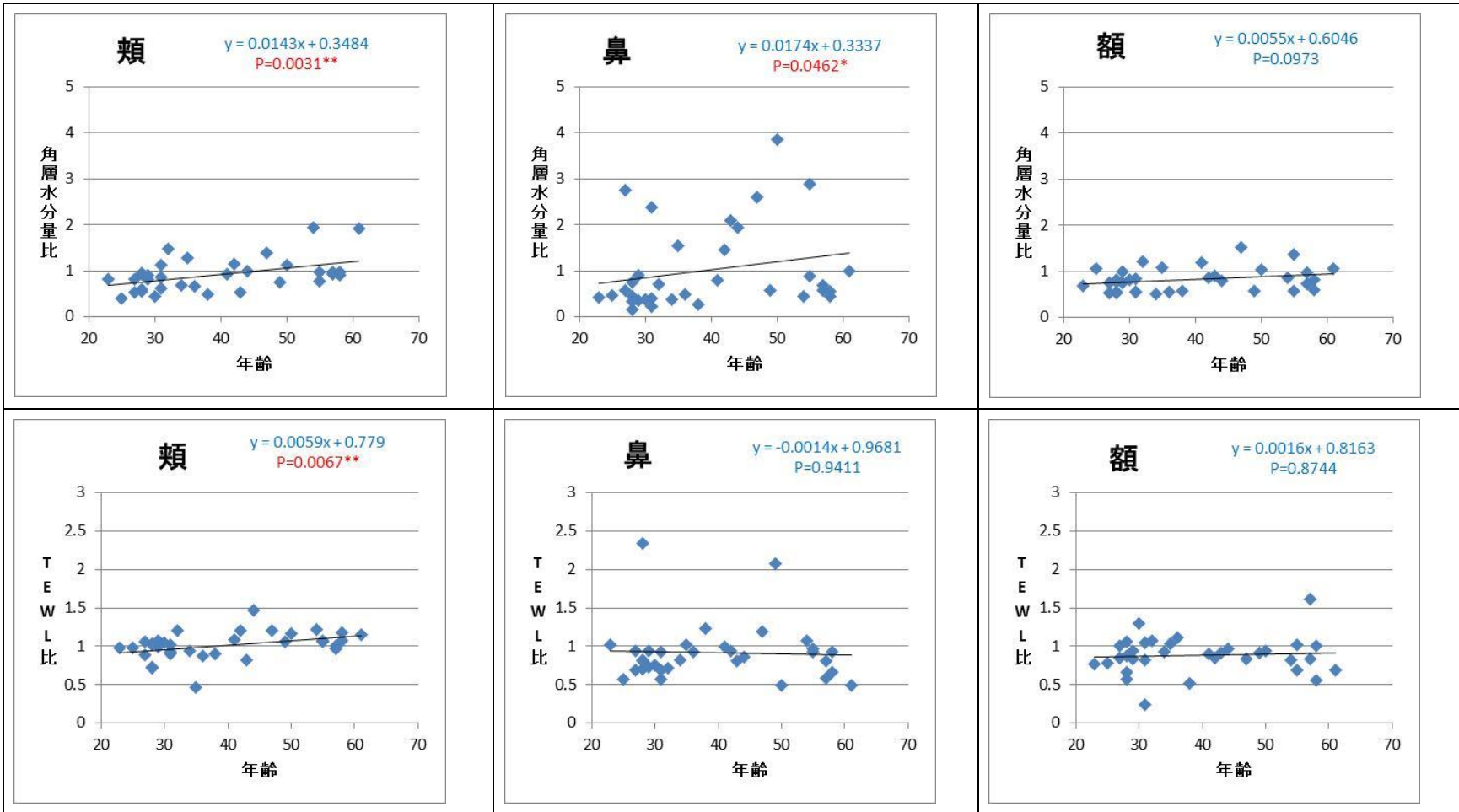


Fig.1 被験者の年齢と角層水分量比及び TEWL 比との相関

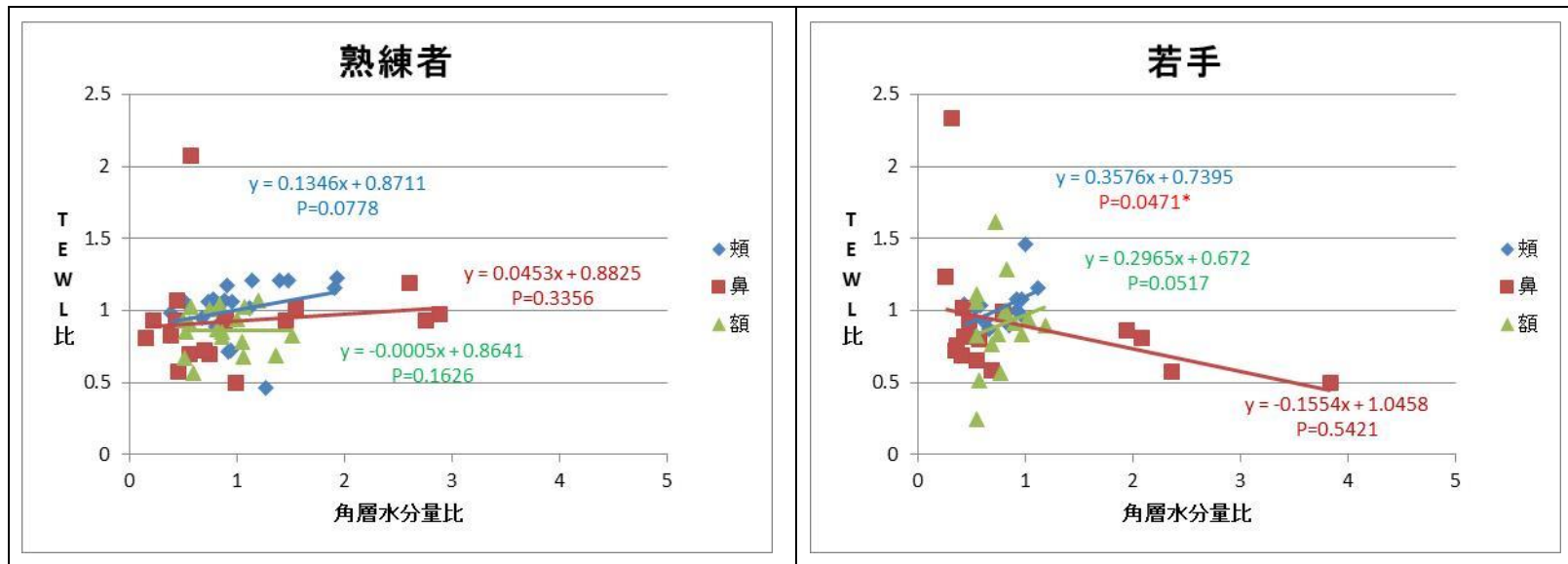


Fig.2 施術者の経験年数による角層水分量比と TEWL 比の相関